

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 Tel06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 Tel072-850-5781
 HomePage担当 〒559-0033 大阪市住之江区南港中5-6-22-703 坪井仁志
<http://www.omc-video.com> Tel06-6613-2836

平成28年8月(2016年)No 608

今年も新作のハイビジョン映像で 第56回OMCフェスティバル出品作品決まる

第56回OMC映像フェスティバルは、10月2日(日曜日)に大阪市立中央会館で開催されますが、この程、幹事会でプログラム編成会議が行われ、プログラム編成が決定しました。今年も前年同様、全作品がハイビジョンの新作揃いで、観客の皆様にも充分にご期待頂けるものと思っております。会員の皆様には観客動員のご協力をお願いいたします。

日時：平成28年10月2日(日曜日)

開場：12時30分 上映：13時～ 終了予定：16時40分

開場：大阪市立中央会館

協力要請事項：出品者の方は全員10時までに会場へお集り下さい。

- ①椅子の取出し、決められた位置に並べる作業 ②スイッチ係によるテスト
- ③案内係、懐中電灯を持参して途中入場者の誘導、受付等あらかじめ担当を決めておきたいと思っておりますので、その節はよろしくご協力ください。

上映作品

- ①元気と癒しを求めて 稲田 拓 5分
- ②花の吉野山 宮崎紀代子 10分
- ③フェアバンクス 華岡 汪 8分
- ④大阪光の饗宴バススアー 柴辻英一 10分
- ⑤猿丸さん 進藤信男 10分
- ⑥棚田の四季 紙本勝 13分
- ⑦鍋から 江村一郎 8分
- ⑧美山 関 剛 9分
- ⑨休憩・挨拶
- ⑩淀川が決壊したら枚方は… 前田茂夫 11分
- ⑪花背松上げ 森口吉正 8分
- ⑫草原の野獣 合原一夫 9分
- ⑬能登のデカ山 河合源七郎 14分
- ⑭山好き夫婦の思い出 有村 博 11分
- ⑮思い出に生きるケヤキ 高瀬辰雄 13分
- ⑯杉浦千畝 山本正夢 6分

(注)当初、坪井氏の「御堂筋 watch」を2部の頭に予定していましたが、作者が出品を辞退されたので順位が繰り上がりました。

8月例会のお知らせ

第4土曜27日午後6時より、大阪市立難波市民学習センターにて開催します。まだ残暑厳しい時期ですが、場内は冷房が効いています。簡単な上着を用意されたいと思います。楽しい例会にぜひお越し下さい。

美山撮影会コンテスト

関 剛作品「美山」が1位に

7月21日(第3木曜日)午後に行われた第2例会の始めに、美山撮影会作品コンテストが行われましたが、互選の結果は次の通りになりました。

最優秀賞 美山 9分 関 剛
優秀賞 心の故郷・美山 10分 合原一夫
秀作賞 美山かやぶきの里

9分 宮崎紀代子

努力賞(順不同)

山里の祭 8分 江村一郎
風薫るかやぶきの里 9分 紙本 勝
茅葺きの里山 11分 山本正夢
蚕でつながっていた美山の里
13分 前田茂夫
かやぶきの里 11分 進藤信男
美山のお田植祭 9分 稲田 拓
かやぶきの里・美山 6分 河合源七郎
美山 10分 西村亀雄

(短評)

撮影会に13名が参加されたが、高瀬会員が本日近所で不幸があり欠席、野田会員はお仕事多忙で来られず、残り11名の方が作品を持参。いずれも良き出来映えでしたがドローン撮影のカットをうまく使われた関作品に凱歌があがった。関氏はドローンを買ってこれから大いに撮影したいとの事。

事故の無い様祈ると共に今後の作品が楽しみです。

7月通常例会レポート

一昨日21日の第2例会に引続き23日通常例会開催、暑さのせいもあるのか19名の会員の集まりで、やや低調と思われたが、珍しく3名の見学者があり、13本が出て、まづまづの例会となりました。

今月の司会は進藤氏、書記、河合氏、上

映係、井上氏、河合氏、、パソコン録画、江村氏、受付兼照明係は森下、宮崎両氏、黒板への掲示、紙本氏の担当で進行しました。

■出席者:赤澤、有村、井上、江村、岡本、紙本、河合、合原、柴辻、進藤、関、高瀬、坪井、華岡、前田、宮崎、森口、森下、山本の19氏と見学者3名の計22氏。

■上映作品(講評は河合世話役です)

ミニコンテスト作品

1. 画竜点睛(BD)

関 剛 5分00秒

撮影会作品最優秀賞

2. 美山(BD)

関 剛 9分00秒

2作品とも撮影会作品につきコメントを控えます。

3. 倉吉廃線を往く(BD)

紙本 勝 11分25秒

「廃線跡にはロマンが横たわっている」と作者は言います。山陰線倉吉駅から倉吉市の山守まで20kmを走っていたJR倉吉線は、路盤が悪く日本一遅い路線の異名をとった上、ダイヤも路線バスより少なくなって、昭和60年に廃線になっています。倉吉駅からの沿線は、倉吉伝統重要建築群の白壁の町をはじめ、古い駅舎、鉄道記念館、自転車専用道路、桜並木など町の雰囲気は漂っていますが、温泉地の「関金駅」を過ぎ大久寺の集落に入ると、一転、草むらの中に錆びたレールが残っています。作者は「ああ!! これこれ!! これを撮るのを楽しみに来た!!」と大声を上げます。そして住民との間で昔話が弾みます。ここから廃線跡の素晴らしい風景が続々展開されます。極め付きは、青い竹が林立する中を線路が

走り、線路のど真ん中に太い「孟宗竹」が生えている姿など、「他では滅多に見られない」と作者は絶賛しています。

4. 思い出を辿る(BD)

有村 博 7分30秒

先月に引き続き作者は、旧居のあった地を訪ね思い出を辿ります。先ず粉浜の商店街を訪ねられますがコメントはなく、大阪で一番古い公園、住吉公園へ。「住吉公園には懐かしい思い出が一杯」と語りかけ、特に住吉大社の「高灯籠」については、思い出が一杯詰まっておられるようですね。

更に足を伸ばして「住之江公園」。この近辺の変貌ぶりにも相当驚かれた様子で、記憶に残っているのは広い野原の中にぽつんとあった大阪護国神社だけ」とか。

画面は、軍歌調のBGMが流れる中、社殿、慰霊碑、鎮魂碑などを中心とした護国神社の風景を丹念に追っかけられてENDです。護国神社については、何か作者のコメントがなかったのでしょうか。

5. 能登のでか山(BD)

河合 源七郎 13分46秒

3つの町が日本一の大きな山車(だし)を曳き出して、3日3晩に亘って繰り広げる、能登七尾市の大地主神社の祭を取材した拙作です。この祭の特色は、若い衆や子供が歌う木遣り音頭と掛け声で、巨大な曳き山が町衆によって曳き回され、狭い十字路や三叉路を一挙に山を90度回転させる見せ場があり、木遣り衆の美声と山を曳く町衆の熱気が、この祭の売りものです。

残念なことに、編集では露出不足に起因するノイズに気づかず、例会で初めて気づいて大型画面の怖さをつくづく痛感しました。問題のカットは他のカットと入れ替えま

い、三脚は使えませんでした。

6. 岳南鉄道(BD)

江村一郎 8分30秒

岳南鉄道は東海道線吉原駅から江尾まで、富士山の南麓、吉原の町を東西に走る全長9キロ余しかない地方鉄道です。「岳南」の熟語は「国語大辞典」にも出て来ませんから、多分昭和24年の会社設立に際し、「富士山の南麓」に因んで名付けられたのでしょう。(※参考：富岳、富嶽は富士山のこと) この鉄道の沿線は製紙工場が林立する地帯で、北を向いたら富士山と製紙工場がファインダーに入ってくるようです。作者は富士山を背景に、走る現役の電車と車庫の古い車両や部品を徹底的に追いかけています。駅名や名所旧跡、食べ物、名物には一切眼もくれない、まことに江村さんらしい作品に仕上がっています。

それにしても、江村さんがカメラを構えるとどうして「猫」が現れて呉れるのだろう。きっと作者のお人柄なのだろう。

7. 居合道に生きて(BD)

前田 茂夫 6分58秒

「前の作品は余にも長かったので短くしてみた」とのコメントで、映写が始まりました。前の作品はたしか3年前で題名は同じ、映写時間は17分でした。主人公は山口孟さん、居合道薩南塩釜流第36代家元で秘伝を公開、流儀の近代化に踏み切られた方です。そして山口さんのお孫さんが、この作品に先んじて公開された「少女剣士」の主人公で、素晴らしい天才振りでした。

前作品も、短くなった今回の作品も、主人公山口さんの武道(居合道)の真髓を描こうとされています。しかし武道の真髓を描くと

いうことは大変な事です。例えば山口さんは学ぶ心得や極意について説かれますが、いくら口で伝えても弟子達の身につくものではなく、血の滲む稽古の中から生まれてくるものです。厳しい修行のなかから弟子達の生活や行動のなかに、山口さんの教えが反映して、初めて観衆は納得するのだと思います。

その意味で、お孫さんの修行態度と掛け声の鋭さは、今も忘れられません。古くから武道でも芸道でも、血の繋がりと早期修行は道を継ぐための必須条件でした。前作の「少女剣士」はまさに後継者育成の真髓だったのです。

ですから、山口さんの真髓を映像で描くためには、それなりに時間が必要だと思います。既に材料は沢山お持ちだと思いますから、私は山口さんの語りは短く、弟子達やお孫さんの激しい修練の中から、薩南塩釜流と師範山口さんの真髓を抉り出すための最低必要時間を、作品に与えて頂くようお願いしたいのです。

8. アラスカ鉄道とデナリ国立公園(BD)

華岡 汪 9分18秒

作者のアラスカの旅は、マッキンリー、フェアバンクスでのオーロラについて、今月はアラスカ鉄道に乗って、デナリ国立公園の広大な高原とそこに住む野生の大型動物を追っての旅でした。成果はグリズリーベア2頭、カリブー2頭そしてムースの雌雄でした。7時間かけての高原の旅としては少し淋しい成果だったようですが、これも自然相手ではやむを得なかった事でしょう。

9. 南紀勝浦温泉に一泊の旅(DVD・SD)

赤澤 与三郎 8分20秒

2002-05と年号が出ますので14年前の南紀の旅の記録だと思われます。その頃は

DVが漸く軌道に乗った頃ですが、なかなか良い映像が撮れていると思いました。

旅は順調に進みますが、皆さんご存知のところなので、旅の解説は当然不要、以下気になる点を記して参考に供したいと思います。南部の梅の店、橋杭岩、などは僅かのカットだけで旅の流れとは繋がりません。また屡々登場する外人らしき夫妻も、意味はありませんので削除して整理されれば、作品の流れは良くなるでしょう。また棧橋に温泉からの迎船「浦島丸」が現れますが、以後勝浦の温泉街や温泉旅館の映像は出てきません。それならばこれまた削除して、タイトルを「南紀の旅」とすれば如何でしょう。

10. 翁三番叟(BD)

進藤 信男 9分50秒

兵庫県青垣町の八幡神社の奉納神事「翁三番叟」を取材されました。

竹竿の先端に花笠状に短冊を吊るした花短冊を先頭に、子供達の練り込みの行列が進みます。神事があって「獅子神楽」の奉納。そして「翁三番叟」の奉納が始まります。

舞台には中心に翁、向かって右側の露払い役の千歳が舞い、続いて主役の翁の舞になります。やがて舞台は暗転。主役にスポットライトが当てられ、画面はアップに。なかなか凝った演出です。最後は左手の三番が面を付けずに「揉(も)みの段」を舞ったあと、「黒式慰(じょう)面をつけて「鈴の段」を舞って終わりになります。

11. 心の故郷・美山(DVD)

合原 一夫 9分35秒

「大都会からこんな風景に出会うとホットする」という作者の語りかけから、美山の美しい風景が広がり、故郷九州の戦後の苦し

かった農村の姿に作者の思いは遡ります。

戦後、農地改革の嵐が大地主であった母子家庭の作者の身边を容赦なく襲い、苦しい生活が続いていた頃の思い出が浮かび、蛭一匹もない田圃で喜々として植え込む早乙女姿と重なり合って、作者には複雑な想いがこみあげて来たようです。

また観光施設ではなく「普通の生活に使われている茅葺きの家」の維持は、「今後どうするのか」と問題提起されています。この面での美山の行政や村人達の取り組みは、「美山観光化」の陰に隠れて、以前よりも退化しているのではないかと筆者も感じました。

にも拘わらず、「ここ美山は、ゆっくり流れる時間、小鳥のさえずり、きよらかな川の流がある心の故郷・美山であった」と作者は結んでいます。

12. バルチックエクスプレスとタリン(BD)

山本 正夢 9分40秒

バルチックエクスプレスは、モスクワとバルト海に面するエストニアの首都タリンを走る長距離夜行列車です。ヨーロッパの長距離夜行列車の旅はロマンがありますね。落日の風景、太陽が昇る朝の姿などに、私は限らない旅情を覚えます。

14時間の乗車を経て列車は首都タリンに着きます。エストニアは13世紀以降多数の国の支配が続き、第一次大戦後独立。しかしソビエト、ナチスドイツ、ソビエト連邦に相次いで占領され、漸く1991年に独立を回復して、EU、NATOに加盟して現在に至っているという、数奇な運命を辿って来た国です。その所為か、世界遺産は貧弱で余り魅力を感じませんでした。次の機会には、長年の被占領国の苦しい歴史を刻んだ映像を見せて頂けたらと思いました。

13. 5月の風に誘われて(BD)

高瀬 辰雄 7分00秒

素晴らしい美山の風景の映像です。美山の魅力が次々と映し出されます。撮影のポジションに工夫をこらし、タイミングを図って何度も訪問、撮影されたことが作品から伺えます。

また、お田植え神事の女の子の笑顔を数多く撮り、選び抜かれたカットが集積されて、申し分ないシーンとなっていました。

しかし、それだけに物語が奇麗ごとに終わっているようで惜しいと思いました。美山はお住まいの近くだけに、もっと抉りとれば面白い「こと」や「ところ」があるのではないかと、こんな期待を作者には申しあげたい気持ちです。

なお、ナレーションは「声の職人」のデモ版を使っておられるそうです。

7月第2例会レポート

奇数月の第3木曜午後に行われている第2例会は21日開催。前半は美山撮影会作品コンテストを、進行役関氏、書記合原氏、の担当で実施。結果は前掲の通りになりました。後半は一般作品で3作品を上映。

司会合原会長、書記西村光雄氏、上映は河合氏、録画坪井、江村の両氏、掲示紙本氏で進行。

■出席者：有村、稲田、植村、江村、紙本、河合、合原、柴辻、進藤、関、坪井、西村、西村(亀)、華岡、前田、宮崎、山本の17氏。撮影会作品は11本、一般作品3本。

■上映作品(講評は西村光雄世話役です)

1. 山好き夫婦の思い出(完)

有村博 11分

2月に同名の11分20秒の作品を持参さ

れましたが、その後全編を短縮し(シーンを丸ごと削除するのではなくて各シーンを少しずつ削除)尾瀬の場面を追加されて再編集されました。作者も奥様もお若い頃の健脚ぶりは素晴らしいですね。槍、穂高をはじめとする北アルプスの峰々をご夫婦で踏破された映像を、最近撮影された上高地の映像に重ねて構成されました。この頃はフィルム時代だったそうですが、単に登るだけでも大変な山々を、ビデオカメラで色々なシーンを的確に撮られるご苦労と、その安定した撮影テクニックには感嘆するばかりです。ご夫婦にとってはこの作品は何者にも勝るモニュメントと言えるのではないのでしょうか。こう言う昔の記念する映像が存在しない私には、とても羨ましい作品でした。

2. 与謝野晶子歌碑除幕式

柴辻英一

8分

情熱の歌人と言われた与謝野晶子は堺市の出身だそうで、恥ずかしながら私は初めて知りました。作者は5月29日に行われた堺市の開口神社(あぐちじんじゃ)の歌碑の除幕式を取材され作品にされました。与謝野晶子の記念碑は沢山ありその内の歌碑は30位で、勿論これは最新の歌碑になります。この神社は晶子が幼い頃に良く遊んだ場所で「少女(をとめ)たち開口の神の樟の木の若枝さすごとのびて行けかし」と歌碑に刻まれていました。作者はこう言うセレモニーの撮影は経験も深いベテランで、必要な場面を的確に撮影されて無駄の無い良い構成をされています。ご本人も仰っていましたが、いつもはマルチカメラで取られて居られるそうで、この撮影は1カメと言う事で撮影アングルの多様性が少なくなるのは止むを得ない事でしょう。1カメでベストを尽くされた撮影と構成と言える作品でした。

3. 十字架の丘とカウナス

山本正夢

9分10秒

作者は5ヶ国語に堪能とお聞きしています。海外旅行もパック旅行ではなくて、あまり日本人が行かない国に個人旅行で行かれ、珍しい風物や絶景を撮影されて魅力のある作品を作って来られました。今回は東欧のバルト3国の1つであるリトアニア共和国の十字架の丘と首都カウナスを訪れて作品にされました。十字架の丘はロシアの圧制に反抗して作られたそうで、約180年位の歴史が刻まれているようです。リトアニアは欧州の小国の例に漏れず、ロシア・ドイツ等の侵略を受けこの丘も何度か被害に晒されましたが、今はカトリックの巡礼地と観光名所になっています。約5万と言われる大小取り混ぜての十字架や聖者の像は壮観です。日本人の名前が書かれた十字架もありましたが入り口で売っているのでしょうね。後半は首都カウナスの伝統的な建築物や町の情景が主体になっていて、街の雰囲気がよく表現されていました。撮影条件として程々に雲がある空は構成上良い条件で、それを生かした編集がされていて、特に夕景の半逆光の絵が効果的に使われているのが、印象に残りました。映像、編集ともに申し上げる事はありませんが、強いて言えばもう少し説明を付けられた方が、良い映像を更に生かせるのではと思いました。またこう言う未知の世界を見せて頂けることを期待しています。